

伊那市

社会教育委員 だより



▲「社会教育委員発！我がまちいいところ10選」視察研修：手良野口 常光寺

TOPIX

- | | |
|------------|--|
| 令和3年4月23日 | 第1回定例会（伊那市役所）を開催しました。 |
| 令和3年7月1日 | 諏訪・上伊那地区社会教育委員連絡協議会合同研修会（箕輪町文化センター） |
| 令和3年8月19日 | 第2回臨時会（伊那市役所）を開催しました。
（会議後、社会教育委員発！我がまちいいところ10選研修視察3か所） |
| 令和3年11月12日 | 上伊那社会教育関係者懇談会（伊那公民館）に参加しました。 |
| 令和3年11月25日 | 第3回臨時会（伊那市役所）を開催しました。
（伊那市教育委員との懇談会）
（会議前、社会教育委員発！我がまちいいところ10選研修視察2か所） |
| 令和3年11月29日 | 長野県社会教育研究大会（長野県総合教育センター）に参加しました。 |
| 令和4年3月22日 | 第4回定例会（伊那市役所）を開催しました。 |

※本年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いくつかの研修会が中止になりました。



伊那市生涯学習基本理念

— 歴史と文化を未来へつなぎ、誰もが心を豊かに育てていく —

令和3年度は、第1回社会教育委員会議(定例会)を、令和3年4月23日(金)に伊那市役所で開催し、本年度事業の取組方針について協議し、スタートしました。

社会教育委員の10名です。

中村幸子 会長 (富県地区)
寺田利男 副会長 (高遠町地区)
酒井照明 委員 (伊那地区)
黒河内あけみ 委員 (美篤地区)
宮原晴美 委員 (手良地区)
高見さゆり 委員 (東春近地区)
倉澤邦弘 委員 (西箕輪地区)
太田伸 委員 (西春近地区)
山崎恭子 委員 (高遠町地区)
中山恵理 委員 (長谷地区)
(任期: 令和2年4月~令和4年3月まで)

社会教育委員 実践活動の取組

伊那市社会教育委員は、「社会教育委員による実践活動の取組」の6つの柱に沿って、活動を進めています。

6つの柱

- I 現場へ「足」を運ぶ
~机上の空論では意味がない~
- II 日頃から「手」に汗を握る
~自分がやらずして、人には言えない~
- III 市民から「顔」が見える
~存在と役割を知ってもらうために~
- IV 些細な事でも聴く「耳」をもつ
~個を知ることは、全容解明の第一歩~
- V 深く掘り下げて視る「目」を持つ
~特色を捉え、生かし、発展させる~
- VI 腹に納めず「口」に出す
~問われて答え、そうでなくても言う~

「足」を運ぶ活動 イベント等参加報告

生涯学習関係イベントに参加して、感想や良かった点、問題点や課題などを報告書にまとめ、社会教育委員会議で発表することで、委員同士で情報を共有し、また、各担当部署でも、出された意見を事業へ活かしています。

本年も、コロナ禍において、イベントへの影響がありましたが、その中でも開催されたイベントに積極的に足を運びました。

報告の中からいくつかご紹介します。

○西春近てらこや塾

自主学习では伊那西高校の学生が学習補助に入り、体験学習は地元の人々に講師として活動して頂いていました。高校生の学習補助が4~6人と積極的な活躍を有り難く思いました。聞いてみると、将来子どもと関わりをもった仕事に就くための実践だと話してくれました。これもまた嬉しいではありませんか。

体験学習では、狼煙の体験と火起こしを児童と一緒に参加させて頂き、木の摩擦で火を起こすことは、残念ながら煙までは出ましたが風のためか火が付きませんでした。火を起こすことの大変さが解かり、自分たちがいかに恵まれた環境で生活しているかを実感出来て良かったのではないのでしょうか。

また、2校の小学校の校長先生が見学されていることも、この公民館活動は重要な活動として位置づけられるものではないだろうか。

○第27回「進徳館の日」

高遠中学校長先生の基調講演は、実学の精神を基にした高遠中学校で考え実践していること、中学生が実際に行動していることをお話しいただけた。

高遠高等学校の書道専攻の生徒さんの3年間の歩みを作品を通してお話しいただけたのも、成長の足跡などが分かり有意義だった。

記念講演は伊澤修二先生に関わる、まだ聞き及んでいなかった進徳図書館及び美術館について資料を基にお話しいただき、学ぶことが多かった。

高遠高校の生徒さんが作品を掲示しながらお話しいただいたことは、大変良かった。

○高遠今昔 ～故矢澤章一氏の資料を繙く～

矢澤さんの膨大な資料の中から今回は、高遠城址や周囲の山や川、町並み等の写真を中心にして展示されていた。その地に住み、そこを歩いた者にとっては大変懐かしく興味深いものでしばし思い出に浸った。高遠湖でのスケートや三峰川での水泳の写真に至っては思わず自分の姿を探してしまっていた。カメラを肩に動きまわっていた若いころの章一さんの姿や声がよみがえった。

三峰川に翻弄されながら発展していった山間の小さな城下町の変遷が写真によって明らかになっていった。

まだ矢澤家に伝わる資料の数々は歴史的に価値あるものばかりだった。次回の展示も楽しみです。

○長谷地区生涯学習講演会「あきらめない心」

伊藤真波さんは20歳の時、事故で右腕を失った。事故直後は親にやつ当たりして、ごはん茶碗を投げたり、自分の映った鏡を割ったりしたそうだ。どれだけ苦しんだことか。人には決して分かるはずのない苦悩だったろう。それでも、伊藤さんは前を向いた。リハビリで始めた水泳でパラリンピック（北京、ロンドン）にも出場。看護師の夢をあきらめず専用の義手を付け看護師の仕事もこなした。

今は、5歳と3歳の子育てをしながら講演活動に励んでいる。なによりびっくりしたのは義手（看護師用、バイオリン用他）を5本持っているということだ。

講演の最後に、専用の義手を付けてバイオリンの演奏（中島みゆきの「糸」）には心打たれた。

○高遠町河南分館「高遠町歴史博物館」見学

福澤学芸員から説明を聞く。1時間半程の1階展示室の説明も含め、2時間を超える詳細な説明に多くの参加者も身近かな歴史に強い関心をみる。

今年寄贈された守屋貞治の延命地蔵の鑑賞も出来、大変充実した時間を過ごす。地元の歴史はある程度学んでいるつもりでいたが、新たに知れることも多かった。

○歴史シンポジウム「老松場古墳群発掘調査報告会」

平成29年、某研修会で老松場古墳公園を見学した。東春近小児童の総合活動が発端となり、「こんな身近な場所に前方後円墳と呼ばれるような大発見があったのだ」、当時、そんな感想を持ったことを記憶している。

そんな所管から年月を経て、本報告会における米田教授による講演。第1次～4次の発掘調査からの考察（様々な貴重な資料やデータ）にもとづく説得力のある話は、千五百年におよぶ伊那の地の遠大な歴史とロマンを感じるような時間であった。

様々な角度から撮った写真や配置図をもとに墳丘の構造や石の構築方法等を解説され、調査の概要を知ることが出来た。

全国をつなぐ道路網、金井東裏遺跡との関連から、伊那谷が当時の大和政権と関わりがあったことを指摘し、教授の「伊那谷は常に中央と繋がっていた」という言葉が印象に残った。

市教委の濱さんが、近年における発掘調査状況を話された。諸建設や宅地造成も大事であるが、その奥底に眠っていた西春近南小遺跡、天庄Ⅱ遺跡等を初めて知り勉強になった。



○第4回宇宙の学校「ミニプラネタリウムを作ろう」（創造館）

「ミニプラネタリウム」ということで、ビニール傘をつかってプラネタリウムを作る体験教室でした。野口先生の説明で一人一人パラソルに星座を描いていきました。最初は困っている姿も見られましたが、どんどん集中して取り組んでいく姿が素敵でした。最初やる気のなかった1年生の子どもが「完成したら学校に持っていくんだ。」と話してくれ集中していることに感動しました。その子にとっていい経験をしたと思いました。こういう機会でも星座などに興味を持ってくれると嬉しいと思いました。

我がまちのいいとこ10選研修視察

深く掘り下げて見る「目」を持つ活動、また、現場へ「足」を運ぶ活動として、各委員が地元の自然、歴史、文化などを推薦し、現地への視察研修を行っています。推薦した委員自身が講師となり、現地を案内します。

伊那市内でも、まだまだ新しいことを知ることが出来、改めて歴史や文化を感じ、学習する機会となっています。

○上伊那招魂社



靖国神社に合祀された上伊那郡市町村出身の殉職者（西南の役～太平洋戦没）を祀るため明治39年建議、40年創立。古町区ならびに古町区民から多大な土地・金が寄せられました。境内には、唐木空蟬の句碑（いろは48文字の替えうたの碑。唐木空蟬：牧野生まれで、長く教職にあった。昭和44年建立）。頌徳碑画人三代碑（高遠出身画伯三代〈池上休柳 池上秀花 池上秀畝〉の頌徳碑。昭和25年建立。建立者：親族一同）。芭蕉句碑（「志具るゝや田乃あら株の黒む程」。明治26年 貳百年回建立。馬場凌冬〈狐島出身の俳人〉他により古町八幡社に建立。東大社合祀時に当地に移転）等の碑があります。

（伊那市中央区）



○美篤小学校資料館



美篤小学校資料館は1952(昭和27)年に建てられた木造校舎。はじめは美篤村の美篤中学校の校舎として利用。校舎から資料館として利用され、現在に至っています。

建物の中には美篤地区で発見された石器や土器類に加え、家々で使ってきた農具や民具といった「民俗資料」が保管されています。

電気などがない時代に使われていたものは、私たちにとっては新鮮。資料館は、郷土に伝わる資料を見ながら、身近にあるものに手を加え、工夫して改良を加えていった先人たちの知恵を学ぶ貴重な場所になっています。

（伊那市美篤）

○とっこ地蔵



「とっこ」とは木の根っこをいいます。ここは、「木のとっこ（根っこ）」をご本尊とする子どもを守るお地蔵様のお堂です。

このとっこ地蔵は子どもの守り神として信仰を集めました。子どもが病気になったとき、地蔵様が身に着けている着物などをお借りして子どもに着せ、病気が治ったときには、そのお礼参りとして新しい物をお返しする。そんな素朴な信仰です。きっとこれからも子どもたちをお守りしてくれるでしょう。

（伊那市富県）

○八人塚



戦国時代、信州の諸豪族は武田氏の侵入に備えましたが、天文十四年(1545)上伊那は武田の軍門に降ることとなりました。

弘治二年(1556)武田信玄が上杉謙信と川中島で対陣中、八人の上伊那の諸豪族は武田氏に反抗するために、信玄の娘の嫁ぎ先の木曾氏を攻撃して帰りました。信玄は大いに怒り、上杉軍との戦いを中途にして急遽伊那へ戻り、八人の諸将を捕らえ狐島において処刑し晒首にしました。黒河内の住民の勇士は闇夜に乗じてひそかに狐島に赴き、八人の首を持ち帰り、黒河内の長城(うしとらじょう)の東のこの地に丁重に葬りました。これを八人塚と言います。(伊那市長谷)

○金鳳山 常光寺



元禄九年(1666年)箕輪町澄心寺十一世三溪長雪大和尚により開創されました。その後、四世物外鷹大和尚が中興となり、本堂を作りました。昭和55年(1980年)に八世石門祐成住職の代に庫裡(くり)が建設され、平成18年には現本堂が建立されました。本尊の釈迦牟尼如来を始め、十一面千手千眼観世音菩薩やぼっくり観音などの仏像もあります。

(伊那市手良)

○春近神社

春近神社には八柱の神さまがお祀りされています。創立年代は明らかではありませんが、かつて御射山の真治が行われたこと、「御射山明神」または「諏訪社」と称された時代があったことから、草創の頃には建御名方命(諏訪)を祀ったものと思われます。史料からは元禄3年(1690)以前に、諏訪、八幡、筒持、天神が祀られていたこと、その後、宝暦10年(1760)までの間に神明宮が加祀され、「五社宮」「五社大明神」などと称されていたことが分かります。さらに、明治43年(1910)、上殿島、中殿島、下殿島の各集落内の神社を合祀し、ご祭神は八柱となり、「春近神社」と改めました。

伊那市有形文化財の本殿、櫻の巨樹、神社の沿革、ご祭神、行事など、春近神社には知らないことが盛りだくさんです。

(伊那市東春近)



任期満了に伴い委員さんからひとこと



(社会教育委員会議の様子)

☆中村幸子（富県地区、会長）

社会教育委員として、この2年間を振り返ってみます時、私達は一昨年以来、新型コロナウイルス感染症に翻弄され、地域での生涯学習活動やイベントの中止を余儀なくされ、交流の機会も閉ざされて参りました。顔の見える交流が孤独や孤立からの解消につながり、交流の機会の重要性を改めて認識いたしました。又、私も例年楽しみにして参りました公民館主催の「夏休み子どもおいで塾」が本年度開催でき、久し振りに児童の皆さんと充実した5日間を共に過ごさせていただきました。又、各委員推薦の「我がまちのいいところ10選」の視察では、市内の自然や文化、歴史に触れさせていただき学ばせていただきました。更に、社会教育委員としての活動の在り方についても、今後検討の運びとなり、新たな活動や活動内容の広報にも期待を寄せています。この二年間、会長としてご支援を賜りました関係各位に心より御礼を申し上げます。



☆寺田利男（高遠町地区、副会長）

この2年間は、新型コロナの感染拡大により、日々子ども達とも交流あるなか、参加人数が制限されたイベントなどへの参加を迷いました。最近、子どもへの感染も多くなり、学びへの影響が心配されます。

これからは、インターネットを利用したオンラインでの取組も効果的になされ、顔を合わせ言葉を交わしての活動と相乗効果につながればと思います。

社会教育、生涯学習の学びも、過去にとらわれず、多様性が求められます。人それぞれ独学での学びも含めて、皆さんが幅広く学び活躍できる状況になって欲しいものです。



☆酒井照明（伊那地区）

もし、この職務を引き受けていなかったら一体どんな生活をしていただろうか。逆発想で思いを巡らせてみた。趣味の油絵を描き、コロナ渦で、変化のない単調な生活を送っていただろう。昨年末の「老松場古墳群発掘調査報告会」等各種イベントは、新聞で見る程度で他人事のように思っていたら。勿論、「我がまちのいいところ10選」「市の生涯学習構想」等も全く知る由もなかったら。そう考えると、社会教育委員としての諸活動は、私に学びの喜び・発見、市政を考える良い機会を与えてくれたと言える。まさに、自分なりの生活（生き方）を豊かにしてくれた何者でもない。本当に2年間お世話になった多くの皆さんに「お陰様」「感謝」の一言である。ありがとうございました。



☆黒河内あけみ（美篤地区）

この2年間、私は社会教育委員として、何をしてきたのか考えてみました。新型コロナウイルス感染症の流行により、多くのイベントが中止されました。今まで参加させてもらっていたイベントにも参加できなく、残念だったことが心に残っています。

2年間で参加したイベントは、「おいで塾」「宇宙の学校」「地球の学校」「中尾歌舞伎」そして・・・。1年目には「宇宙の学校」のみお手伝いできました。感染予防のために参加人数を減らし、作業も各家族ごとにテーブルを使い、教材も個々でできるものに工夫されていました。2年目になり、イベントも少し開催され、夏休み「おいで塾」は、勉強と楽しみの両立で、今までとは違う取り組みで楽しい3日間でした。「中尾歌舞伎」も練習時から感染予防に気をつけ小規模ではありますが、開催できて嬉しかったです。

2年間、ありがとうございました。



☆宮原晴美（手良地区）

12月の日曜日に、老松場古墳群発掘調査報告会がありました。会場は、いっぱいの人で、多くの方々が関心を持って参加されていることがうかがえました。

報告会は、古墳群と当時の道とも関連づけて話していただき、ダイナミックな暮らしぶりに、感動させてもらいました。

私たちの世代は、定年制が延長され、私を含め、働いている人たちがたくさんいます。そうした中で、この日の報告会は日曜日に開催していただきました。教育委員会の方々は大変だったことと思いますが、参加者にとっては、大変ありがたいことでした。

働き方が変わりつつある時、生涯学習のあり方もまた変わっていく必要があるのではないかとということも感じさせていただいた報告会でした。



☆高見さゆり（東春近地区）

公民館活動に携わりながら、地域の人と人を繋ぎ共に学ぶお手伝いをさせていただきたくと任に就いたのですが、企画されたイベントが次々と中止・延期に追い込まれた2年間でした。その中で夏の小学生学習塾、中尾歌舞伎、成人式など、規模を縮小し創意工夫されながら実施できたことは、大変なご尽力あつてのことと、関係の方々に敬服いたしました。「市報」などで、参加者の喜びの笑顔が輝く姿を本当に嬉しく拝見いたしました。素晴らしい伊那市の自然・文化。守ってこられた先祖、先輩の皆様から次代の人々へと継承し伝承していくことの大切さを今強く思います。社会教育の一端に微力ながら関わらせていただけましたことに心から感謝申し上げます。



☆倉澤邦弘（西箕輪地区）

社会教育委員として活動を始めてから1年が過ぎようとしています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていくつかの会議や研修会が縮小や中止となり、その都度事務局からの丁寧な連絡に頭が下がる思いがしています。西箕輪地区においても公民館事業が中止・縮小となりましたが、わんぱく親子塾、公民館スポーツ教室、夏休みおいで塾など主に子どもたちに関わる行事に参加させていただきました。様々な工夫をした企画で子どもたちの生き生きした表情や充実した笑顔。スタッフの満足顔が印象に残りました。令和4年度の事業も滞りなく実施できることを願っています。私も微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います。



☆太田 伸（美篤地区）

伊那市の生涯学習基本構想の最終年度、第2次基本構想の初年度の2年間、折しも新型コロナウイルスとの戦いの2年間でもありました。そうした状況下、生涯学習における社会教育の事業が縮小され、あるいは中止となる異常事態となりました。私たちは直接対面で人と言葉を交わすことの楽しさと重要性を再認識させられました。「リモート」がキーワードとなり、新たなスタンダードが生まれようとしている中、生涯学習、社会教育の現場も新たなコミュニケーション手段の必要性が求められようとしています。「歴史と文化を未来につなぎ、誰もが心を豊かに育んでいく」の基本理念と共に、変化する生活様式に迎合した社会教育の事業計画が求められていると感じております。

任期を終えるに当たりお世話になりました関係各位の皆様にお礼を申し上げます。



☆山崎恭子（高遠町地区）

新型コロナウイルス感染症から始まった2年間となりました。その会議の冒頭、教育長のウィズコロナを見据えてとありましたが、まだその出口も見えない状況の中、これ迄のような各委員さんとの交流も少なく、自身の活動としては、高遠嘶、孤軍高遠城伝承会の城下町特有の伝統芸能と高遠小学校のクラブ活動に携わり、8回が6回となりながらもクラブ活動を楽しみに待ってくれる児童の皆さんと、楽しく又上達していく様子を実感する活動になりました。

社会教育委員として、地区の方々と他地区を繋ぐ役割も微力ながら果たせたかと考えます。また、上伊那研修会等のグループ会議においては、常に伊那市の取り組み（イベント報告）に注目が集まりました。

3期6年の任期を終えるにあたり、生涯学習課年度ごとの事務方の皆様、さらに他地区委員さんのおかげと感謝申し上げます。

☆中山恵理（長谷地区）

コロナ禍で各種イベント等も中止となり、小中学校の卒業式・入学式にも来賓は呼ばれず、コロナも第6波の3年目となった。ここで想うのは子どもたちである。普通なら学校で修学旅行に行ったり、教室で勉強した事、部活で励んだ事を発表したりと当たり前の事が出来たであろうに、それが出来ない。青春真っ只中の3年。私たち老年にとっては変り映えのしない3年だが、子どもたちにとっては、その時にしか味わえない貴重な3年が試練の3年となっている。ただ、悪いことばかりではない。コロナ禍で学んだ事も多いはずだ。今年はトラ年。マイナスに捉えるのではなく、プラス指向で何事にもトラいし、進んで行ってほしい。明けない夜は無いのだから。



2年間の任期、お疲れさまでした。



～歴史と文化を未来へつなぎ、誰もが心を豊かに育んでいく～

伊那市社会教育委員だより

編集・発行 伊那市教育委員会生涯学習課
〒396-8617 伊那市新田3050番地
電話：0265-78-4111（内線2721）
FAX：0265-72-4142
Eメール：sgs@inacity.jp

お問い合わせなどは
こちらへ

